

## 専大校友を訪ねて 米NFL「レッドスキズ」で日本人唯一のチアリーダー 中山麻紀子さん



笑顔と華麗な舞いで魅了するチアリーダーは、米国の女の子たちにとってあこがれの存在だ。ダンス技術のみならず心身ともに優れ、知性と自立性も持ち合わせているのが条件で、その姿は現在の理想的女性像だからだ。その夢の座で日本人の中山麻紀子さんが活躍している。

「私たちの演技で、周りの人々が元気になってくれる。最高の喜びです」

米フットボールの最高峰NFLの名門チーム「レッドスキズ」のチアリーダーのトライアウト(オーディション)に、今年4月挑戦。300人中39人という難関を突破、日本人でただ1人、その一員となった。

94年(平6)専修大学経済学部に入學。ピアノとフルートを奏でる音楽少女だったが、専大松戸高時代、高校野球の応援でチアを体験。大学で全学応援団チアリーディング部「BLASTS」に入部、チア一筋の生活となった。練習中は生傷が絶えず、鼻の骨を折る大ケガを負ったときも固定マスクをつけて励んだ。4年次で米オレゴン大学に留學、同大学チアのアシスタントを務めた。「本場チアのダンス演技は、当時の私には遠い存在でした」

99年(平11)オンワード樺山に入社。経理部での仕事をこなしながらアメフトXリーグのオンワードオークス(その後オンワード・スカイラークス)で活動、さらに同リーグのオールスターチアリーダーにも選ばれた。

「目標に対して決してあきらめない。そのための努力は惜しまない」旺盛なチャレンジ精神で階段を上りつめ「遠い存在」だったNFLチアの座を手に入れた。レッドスキズの本拠はボランティアも盛んなワシントンDC。試合での応援のほか、地域の諸施設や世界各国を訪問して恵まれない人々への奉仕活動も。

「将来は日本で子供たちを指導し、本物のチアリーディングを根付かせたい」。人々を励まし、勇気付けるチア・スピリットを伝えたいと願う。

[12月15日/ニュース専修8面]